

Title	研究者のモチベーションと職務満足
Sub Title	
Author	石川淳(Ishikawa, Jiyun) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1056号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1056">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1056</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	石川 淳	主査	石田 英夫
		副査	関本 昌秀
			高木 晴夫
所属	石田 英夫 研究室		

## 研究者のモチベーションと職務満足

本論文の目的は、研究開発のうち研究に焦点を当て、研究者のモチベーションと職務満足に対して、年齢がどのような影響を与えるのかについて明らかにすることにある。

そのために、文献研究をもとにモチベーションと職務満足の関係についてのフレームワークを導出し、そのフレームワークを土台に、研究者のモチベーションと職務満足に対する年齢の影響についての仮説を構築し、実地調査によってその仮説の検証を行った。

実地調査においては、先端技術分野の代表的産業の一つである製薬業界を調査フィールドとして選んだ。具体的には、日本の主要な製薬企業6社の研究者と対象として、モチベーションや職務満足に関する質問紙調査を行った。458名の研究者からえられたデータをもとに、因子分析や相関分析などの統計的手法により分析を行い、仮説の検証を行った。仮説の構築および検証を通してえられた、研究者の年齢と、モチベーションおよび職務満足の関係は以下の通りである。

1. 研究者のモチベーションは年齢とともにより高いレベルに収斂していく。
2. 研究者の職務満足は、20歳代で高く、30歳代で一度落ちて、その後は年齢とともにより高いレベルに収斂していく。
3. モチベーションも職務満足もともに高い研究者は、20歳代で多く、30歳代で一度落ちて、その後は年齢とともに増えてくる。また、モチベーションは低い職務満足だけは高いという、一見窓際的存在を思わせる研究者は、20歳代で比較的多く、その他の世代では一様に少なかった。

以上述べてきた研究者の年齢と、モチベーションおよび職務満足の関係は、中高年層になればなるほど、モチベーションが高い研究者しか研究所に残れないという研究所における選別、年齢が上がるにつれより重要な仕事を任せられるようになるという仕事配分、そして年齢が上がるにつれ会社に対する貢献よりもアウトカムの受け取りの方がより多くなると研究者が感じていること、などの影響を受けているものと考えられる。